

2023年度総合仏教研究所特別講座

求法と巡礼の物語

—中世日本の僧伝絵巻を中心に—

講師 **小峯 和明** 先生
(立教大学名誉教授)

本研究所では特別講師に小峯和明先生をお迎えし、下記の日程で講義を開催いたします。
どなたでも聴講できますので、ふるってご参加ください。(聴講無料・予約不要)

[時間] **13:20～15:00** (3時限目)

[場所] **総合仏教研究所 研究室1** (3号館4階)

第1回 9月28日(木) 円仁の求法と巡礼—『入唐求法巡礼行記』を読む

第2回 10月26日(木) 鑑真の伝法の旅—『東征伝絵巻』を読む

第3回 11月 9日(木) 新羅の義湘と元曉—『華嚴宗祖師絵伝』を読む

第4回 11月30日(木) 空海の求法の旅—『弘法大師絵伝』を読む

第5回 12月14日(木) 西域求法と巡礼の旅—『玄奘三蔵絵』を読む

【講義概要】

仏教がインドから西域、中国、朝鮮半島から日本へ伝わったことは周知のことですが、飛行機や自動車もない時代にそのことがいかに可能となったか、その意義をいつも考える必要があるでしょう。仏法伝来の根本はあくまでも人から人への直接の伝授であり、先人達が幾度も苦難を克服して彼の地へ赴き、弟子が師から仏法を学び、あるいは師が弟子に伝えたからにはほかなりません。伝法と求法には彼の地へ行って帰る旅(帰れない場合もあり)が必要であり、おのずと聖地巡礼や異文化交流をとまめます。そうした旅の苦難を乗り越え、仏法伝来の宿願を果たした人達の軌跡は長く語り継がれ、後世の人々にも感動を与え続け、数々の物語を生み出すことになります。当人が日記や記録を残すこともあるし、直接の弟子達や身近な人々が伝記をまとめたり、様々な形で受け継がれていきます。後世に想像を交えて作られた逸話も少なくないでしょう。なかには言葉だけでなく、絵画で表される場合もあり、特に日本の中世(鎌倉時代)を中心に、伝記の物語の言葉とともに絵を加えた絵巻が多く制作され、よりイメージが鮮明になります。

ここでは、そうした絵巻を中心に、仏法伝来をめぐる異文化交流の物語の数々を読んでいきたいと思います。直接仏法伝来に関わる絵巻が残されているのは、奈良時代の有名な鑑真、新羅の義湘と元曉、真言の空海、『西遊記』でも知られる玄奘三蔵などです。一回目の円仁は絵巻はありませんが、当人の日記が現存する希有な例であり、求法や巡礼、法難など往還をめぐる感動的な面が多いので、ぜひ取り上げたいと思います。

【問い合わせ先】 大正大学総合仏教研究所 03-3918-7311(代表)

https://www.tais.ac.jp/library_labo/sobutsu/

※日程等に変更が生じた場合は、随時、上記HP上にてご案内いたします。